

九州伝産の旅

vol.16

2025 年

博多織 西村織物

<織元紹介>

西村織物の起源は、天正十五年（1587年）、朱印状を授与され絹糸の貿易商人となったことに遡る。江戸時代末期の文久元年（1861年）西村織物創業、博多織の織元となる。太平洋戦争中1945年の福岡大空襲で工場、会社が全て焼失するも1948年に再開。1957年になると手織りから機械織へと移行。呉服業界が厳しくなる中少ロット多品種という厳しい条件ながらも進化をつづけた。2016年に聡一郎氏が6代目社長に就任。社内一貫体制を作り染色やデザインなども内製化。糸作り以外の全ての工程を西村織物内で可能とした。最古にして先端であることを意識しながら次世代に事業をつないでいる。

博多織 西村織物（株）

博多織の全ての工程を一貫生産

最古にして先端の織元を目指す

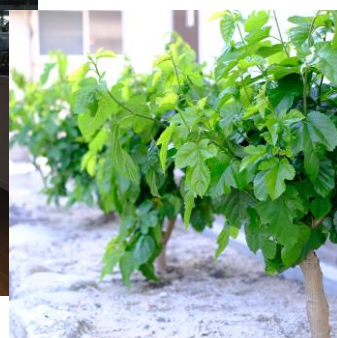
福岡市のベッドタウン、筑紫野市の住宅街の中に佇む西村織物さん。会社の続く道には両脇に青々と木々が生い茂り、さらに工場の入り口には桑の木がうえてあり、その情景にいと桑の葉を食べた蚕から産まれる美しい絹は自然からの贈り物だという考えが頭に浮かびました。



西村織物 西村社長



ショールーム ORIBA から工場をのぞむ



桑の木

■ 博多織の歴史・特徴

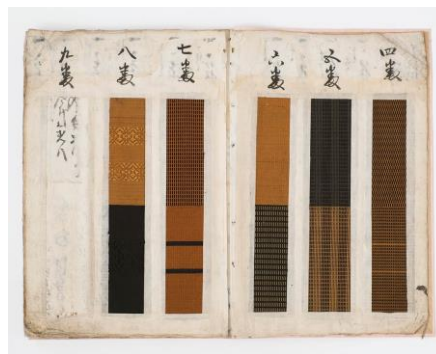
鎌倉時代、博多商人の満田彌右衛門（みつだやざえもん）が僧侶、聖一国師（しょういちこくし）とともに宋の時代の中国に渡り、織物技術を持ち帰ったのが始まりと言われています。江戸時代になると、現在の福岡県の大部分にあたる筑前国の領主であった黒田長政が幕府の献上品に用い、その際の柄が博多織の代表的な柄「献上柄」となります。博多織は、たくさんの経糸（たていと）に、細い糸を数本まとめ合わせた太い緯糸（よこいと）を力強く打ち込んで作られます。地質が厚く、模様を経糸のみで表しているのが特徴です。簡素で粋な感じの絹織物で、博多帯は締めやすく、締めるときの「キュッキュッ」という絹鳴りは博多織ならではのものです。

また、日本三大帯産地の1つでもあります。（西陣、桐生、博多）

Q. 創始は戦国時代、創業は江戸期、博多織最古の織元と伺いました

来年で創業165周年を迎えます。もともとは、天正15年（1587年）の豊臣秀吉の町割に参画し、朱印状を授与されたことから絹糸の貿易商人として歴史が始まりました。そこから江戸の末期1861年（文久元年）に機屋（はたや）に転換したのが創業となります。当社のアーカイブには江戸時代からの生地サンプルが膨大に保存されています。

太平洋戦争中に博多の中心部にあった工場は焼けてしまったので、広い土地を求めて戦後二日市に移転しました。二日市に移って60年。残っている博多織の織場としては最古で最大になります。



保存されている江戸時代の生地サンプル

Q. 西村社長は歴史ある西村織物の6代目になられますが、家業を継がれるご苦労はありましたか

工場の隣に家があり、身近には感じていましたが、もともと家業を継ぐつもりはなく、大学卒業後は三菱重工に就職して海外輸出等を担当していました。そこへ四代目の祖父が亡くなり、五代目の父が病気になったことで家業を継ぐことになりました。

私は誕生日が戦後西村織物を復興させ事業を拡大した中興の祖である四代目の祖父と同じで、祖父から名前をつけてもらっています。きっと祖父は生まれたときから継がせるつもりだったのでしょう。

しかし重工から織物では全く畑が違い、職人が何を言っているのかわからない状態でした。また自分には工場の運営方法が無駄の塊に写りました。二十代で社長となって、あせりもあったかと思いますが、社員とぶつかりバチバチの状態になってしまいました。

その後、いったん会社を辞めます。そして博多織ディベロップメント・カレッジに入り一から博多織を学び直しました。

卒業後、人生を博多織にかけると決め、一社員として西村織物に戻りました。業績は当時よくなかったのですが徐々にあげていきました。

歴史ある企業を継ぐということは、次に繋げていかないといけないということ。大変なプレッシャーです。会社は預かり物だと思って次の世代に繋げていきたいと思っています。

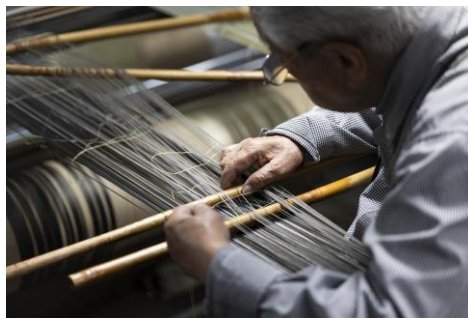
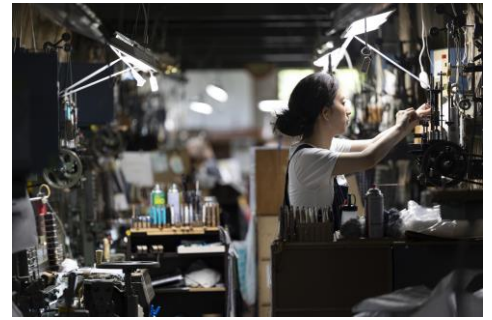
Q.西村織物の特徴を教えてください

私たちは“最古にして先端”と言っています。

古くからのものも作っていますが、新しいこともやっている会社であることが特徴でしょうか。

Q.伝統工芸士の資格を持つ方が6名、博多織の全ての工程に伝統工芸士の方がいらっしゃると伺いました 人材育成、技術の継承はどのように行っているのでしょうか

当社には定年がありません。定着率は高く、勤続20年超える方ばかりで長い人は53年勤めています。78歳で現役の方もいます。他社を定年退職された方、育休明けの方、銀行を辞めてこの世界に飛び込んだ方や博多織DCを卒業した方など様々な社員・職人がいます。2／3は女性です。共通しているのは博多織が好きで好きでたまらない人。それくらいでないと務まらない厳しい業界です。



Q.他業種とのコラボレーションにも積極的だと伺いました

Maker's shirt 鎌倉と組んで、博多最古の茶舗「光安青霞園茶舗」の八女茶の廃材から染料を抽出し染めた糸で作ったネクタイを作ったり、博多最古の菓子舗「石村萬盛堂」とシルクプロテイン入りのマシュマロを開発したり、博多人形の中村人形と組んで博多祇園山笠で男衆が締める帯「Yamaobi」など、誰とでも組むわけではなく、老舗や伝統的工芸品など相手を考えて組んでいます。お互いコンセプトが違ふところとやりたいと思っています。今後は朝倉の新道蒸留所のワインの残渣で染めてみようかと企画もあります。



Yamaobi



Makuake より

Q.西村社長のモットー及び西村織物として大切にされていることを教えてください

「変化こそ唯一の永遠である」です。頭が固くならないように変化し続けられるか、大切なことだと思っています。

ものづくりの姿勢としては社訓でもある「誠実是最上」です。いつどんなことに対しても誠実であれ、ということです。例えば、当社の検品はとても厳しいことで知られています。

profile

織元名

西村織物株式会社

場所

福岡県筑紫野市紫 7-3-5

電話

092-922-7128

直営店舗 ORIBA 定休日

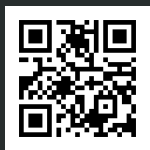
日曜日・祝日・第2第4土曜日

営業時間

10:00~17:00

Web サイト

<https://nishimura-orimono.jp/>



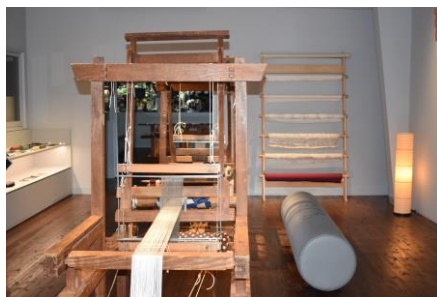
Q.今後の目標は？

海外、特に欧州にいきたいと思っています。石橋を叩きながらではありますが（笑）。一昨年10月にアメリカシアトルに帯を持って行ったところ全然売れませんでした。しかし布としてはほしいという声はあったので可能性があると思います。

今までのコラボが人と人のつながりから広がったように、人とつながっていけば欧州への道が拓くと思っています。

国内では、福岡市内か東京に直営店を出したいです。帯は堅調な国内で、広幅の織機で織ったものは海外へ、と考えています。

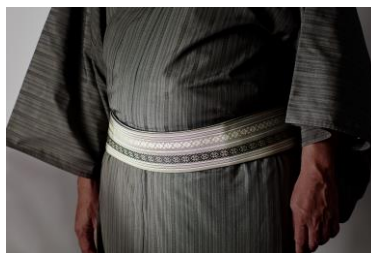
また手織りも以前はやっていましたが今やっていないので、今後復活させたいと思っています。



Q.博多織・博多の魅力を教えてください

経糸（たていと）が多く男帯が有名な博多織は、京都西陣織などのはんなりした帯に比べ強く、脇差しをさしても大丈夫と武士に好まれた帯で玄人好みの帯と言えるところが魅力です。後世に残していきたいです。

新しいことをやれるのは博多の気質でありつよみだと思っています。



ショールーム ORIBA は工房に隣接しており、ORIBA の窓から浮かび上がる工房の様子はまるで映画を見ているようでした。

ORIBA から一步工房の中に入ると織機や糸車がリズムカルに動く大きな音、その中で真剣に向き合う職人の方の姿、とものづくりの現場の臨場感があふれていました。800年あまりの時の中で脈々と続く博多織が美しく紡がれていく姿に圧倒されました。

